

発生予察情報

特殊報第2号

平成16年11月2日
秋田県病虫害防除所

ミニトマト斑点病の初確認について

1. 発生経過

平成15年に、秋田県の夏秋ミニトマト産地において、葉に緑褐色の小斑点を生じ、その後急激に下位葉から黄化枯死する症状が確認された。平成16年も同様の症状が確認された。

本症状について、秋田県農業試験場で同定を行った結果、病徴や分離菌株の特性から本病はミニトマト斑点病であることが判明した。本県での本病害の発生は初確認である。

2. 発生状況

1) 病 害 名 ミニトマト斑点病 *Stemphylium solani* Weber

2) 発生した作物 ミニトマト

3) 発 生 地 点 県内夏秋ミニトマト産地

4) 被害の様相

本年度、県内の夏秋ミニトマト産地で広域的に確認された。葉の病斑中心部が灰褐色となりその後病斑の拡大が止まる場合もあるが、病斑が進展して下位葉から黄化枯死するとともにがくにも病斑が発生したため、収量、品質に被害をもたらした。

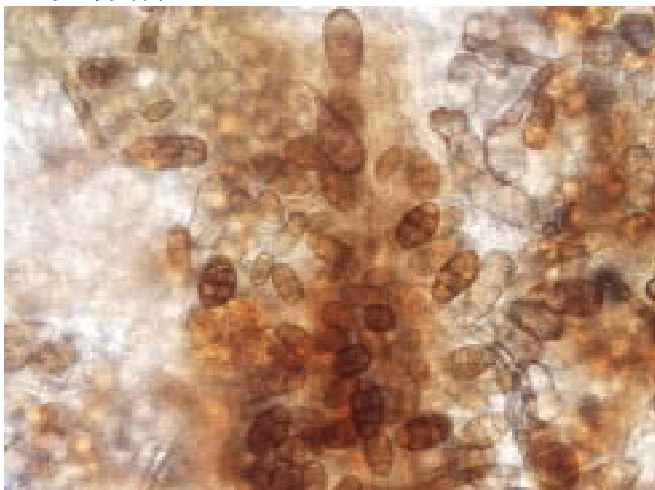
3. 病徴および発生生態

- 1) はじめ葉に、緑褐色の小斑点を生じ、その後2～3mmの周りが黒褐色、中心部が灰褐色の病斑となる。
- 2) 病斑の周囲は黄色に縁どられ、のちにその中心部に穴があく。
- 3) 病斑は生長点まで進展し、下位葉から黄化して枯れ上がる。茎や果房、がくにも発生する。
- 4) 病原菌は被害植物で越冬し、翌年度の伝染源になる。
- 5) 20～25℃のやや冷涼な気温・多湿条件下で発生しやすく、発病後は病斑上にできた分生胞子により二次伝染する。

4. 防除対策

- 1) 被害茎葉はそのままにせず圃場外へ運びだし、土中に埋める。
- 2) 収穫終了後、資材の消毒を行う。
- 3) 生育後半の樹勢低下や窒素過多により発生しやすいため、適正な肥培管理につとめる。
- 4) 本病の好適条件下になると急激に多発するため、予防防除につとめる。

5. 参考資料



写真－1 ミニトマト斑点病分生子



写真－2 初発時の病斑



写真－3 病斑周縁の黄化



写真－4 果房、がくでの病斑



写真－5 進展後の下位葉枯死

【問い合わせ先】

秋田県病害虫防除所 018(860)3420

秋田県農業試験場 018(881)3327

掲載HP <http://www.pref.akita.jp/nosaneng/bojo/>